

「遠藤金融庁」が取り組む主な施策

▼主要行
・米欧の金融政策の正常化や貿易摩擦などに対応した機動的なポートフォリオ管理
▼地銀
・社外取締役と議論、重要な経営判断で社外取締役を含めて十分な議論を経ているか検証
・トップ後継者の選任プロセスの透明性確保
▼信用金庫
・「職員外理事」の登用や「評議委員会」など外部の目を入れる仕組みづくり
▼生命保険・損害保険
・大手生損保に経営会議資料や取締役会議事録の報告を求める「リアルタイムモニタリング」を新たに実施
・大手損保の自然災害・再保険・サイバー保険などの引き受け状況のモニタリング実施

# 地銀経営 360度点検

## 金融庁、ガバナンス浸透把握

### 支店長や職員からも

金融庁の遠藤俊英長官は日本経済新聞のインタビューで、金融機関のガバナンス(統治)体制の検証に一段と踏み込む考えを示した。スルガ銀行の不適切融資問題などが念頭に。社外取締役や現場の職員らを含めて経営方針が浸透しているかを360度から点検、実態を正確に把握し、ガバナンスの向上を促す。



遠藤俊英長官

「営業の現場、支店長や営業職員が経営戦略を実際にどう具体化し、自分たちのものとして実行しているかを確認したい」と。金融庁はかねてガバナンスを金融機関経営の根幹と位置づけ、検査・監督で重点的に検証してきた。遠藤氏は「業態をまたいだ横断を刺す視点として極めて重要」と指摘

「営業の現場、支店長は、近く公表する2018事務年度の金融行政方針でも「きちんと議論する」ことを強く打ち出す」と語った。

「具体的な執行の体制づくりまでみていく」と強調。より踏み込んだ対応をどう考えを示した。

「スルガ銀行の大きな問題が起きていた。自己反省しながらモニタリングの体制を改めて検証する」

「ガバナンスの点検で踏み込んだ対応をとるには不適切な融資が横行していたスルガ銀問題も背景にある。同行では経営陣と現場の間に大きな溝があり、必要な情報が経営にあがっていなかった実態が明らかになっていく。こうした事例も教訓に、経営層だけでなく支店長や職員ら現場レベルが経営方針を理解して実行しているのかも聞き取りなどを通じ確かめる。金融庁はすでに3メガバンクに対して通年検査を実施、経営会議や取締役会の議事録などの提出

を受けている。新たに大手生損保会社に対しても同じ手法で、経営がいま何を議論しているのか、海外M&A(合併・買収)などをめぐるような議論を経て進めているのか、ガバナンスの実態をつまづき把握できる体制を整え

「(地銀)再編は地域の顧客のためになる金融サービスを提供できる組織にするための経営の選択肢の一つだ」と指摘。遠藤氏は再編を推進しているが、ガバナンスの実態をつまづき把握できる体制を整え

### スルガ銀問題「自己反省」

### 問われる日利き力

遠藤長官はインタビューで不適切な融資が組織的にまん延していたスルガ銀問題を踏まえた検査・監督のあり方について「自己反省」する姿勢を示した。ではどうすればこの問題を防げたのか。かつて金融庁は約3年ごとに地銀に立ち入り検査してきた。善しあしは別に銀行からすれば定期的に金融庁が来るという緊張感があったのは事実だ。ただ定期的に入ると「検査する側も形式的になり、入ったからには成果をあげなければという行動に陥って『重箱の隅をつつく』副作用が大きかった(遠藤氏)。

「自己反省」する姿勢を示した。ではどうすればこの問題を防げたのか。かつて金融庁は約3年ごとに地銀に立ち入り検査してきた。善しあしは別に銀行からすれば定期的に金融庁が来るという緊張感があったのは事実だ。ただ定期的に入ると「検査する側も形式的になり、入ったからには成果をあげなければという行動に陥って『重箱の隅をつつく』副作用が大きかった(遠藤氏)。

「自己反省」する姿勢を示した。ではどうすればこの問題を防げたのか。かつて金融庁は約3年ごとに地銀に立ち入り検査してきた。善しあしは別に銀行からすれば定期的に金融庁が来るという緊張感があったのは事実だ。ただ定期的に入ると「検査する側も形式的になり、入ったからには成果をあげなければという行動に陥って『重箱の隅をつつく』副作用が大きかった(遠藤氏)。

「自己反省」する姿勢を示した。ではどうすればこの問題を防げたのか。かつて金融庁は約3年ごとに地銀に立ち入り検査してきた。善しあしは別に銀行からすれば定期的に金融庁が来るという緊張感があったのは事実だ。ただ定期的に入ると「検査する側も形式的になり、入ったからには成果をあげなければという行動に陥って『重箱の隅をつつく』副作用が大きかった(遠藤氏)。

「自己反省」する姿勢を示した。ではどうすればこの問題を防げたのか。かつて金融庁は約3年ごとに地銀に立ち入り検査してきた。善しあしは別に銀行からすれば定期的に金融庁が来るという緊張感があったのは事実だ。ただ定期的に入ると「検査する側も形式的になり、入ったからには成果をあげなければという行動に陥って『重箱の隅をつつく』副作用が大きかった(遠藤氏)。

「自己反省」する姿勢を示した。ではどうすればこの問題を防げたのか。かつて金融庁は約3年ごとに地銀に立ち入り検査してきた。善しあしは別に銀行からすれば定期的に金融庁が来るという緊張感があったのは事実だ。ただ定期的に入ると「検査する側も形式的になり、入ったからには成果をあげなければという行動に陥って『重箱の隅をつつく』副作用が大きかった(遠藤氏)。

「自己反省」する姿勢を示した。ではどうすればこの問題を防げたのか。かつて金融庁は約3年ごとに地銀に立ち入り検査してきた。善しあしは別に銀行からすれば定期的に金融庁が来るという緊張感があったのは事実だ。ただ定期的に入ると「検査する側も形式的になり、入ったからには成果をあげなければという行動に陥って『重箱の隅をつつく』副作用が大きかった(遠藤氏)。

「自己反省」する姿勢を示した。ではどうすればこの問題を防げたのか。かつて金融庁は約3年ごとに地銀に立ち入り検査してきた。善しあしは別に銀行からすれば定期的に金融庁が来るという緊張感があったのは事実だ。ただ定期的に入ると「検査する側も形式的になり、入ったからには成果をあげなければという行動に陥って『重箱の隅をつつく』副作用が大きかった(遠藤氏)。

「自己反省」する姿勢を示した。ではどうすればこの問題を防げたのか。かつて金融庁は約3年ごとに地銀に立ち入り検査してきた。善しあしは別に銀行からすれば定期的に金融庁が来るという緊張感があったのは事実だ。ただ定期的に入ると「検査する側も形式的になり、入ったからには成果をあげなければという行動に陥って『重箱の隅をつつく』副作用が大きかった(遠藤氏)。

「自己反省」する姿勢を示した。ではどうすればこの問題を防げたのか。かつて金融庁は約3年ごとに地銀に立ち入り検査してきた。善しあしは別に銀行からすれば定期的に金融庁が来るという緊張感があったのは事実だ。ただ定期的に入ると「検査する側も形式的になり、入ったからには成果をあげなければという行動に陥って『重箱の隅をつつく』副作用が大きかった(遠藤氏)。

「自己反省」する姿勢を示した。ではどうすればこの問題を防げたのか。かつて金融庁は約3年ごとに地銀に立ち入り検査してきた。善しあしは別に銀行からすれば定期的に金融庁が来るという緊張感があったのは事実だ。ただ定期的に入ると「検査する側も形式的になり、入ったからには成果をあげなければという行動に陥って『重箱の隅をつつく』副作用が大きかった(遠藤氏)。

「自己反省」する姿勢を示した。ではどうすればこの問題を防げたのか。かつて金融庁は約3年ごとに地銀に立ち入り検査してきた。善しあしは別に銀行からすれば定期的に金融庁が来るという緊張感があったのは事実だ。ただ定期的に入ると「検査する側も形式的になり、入ったからには成果をあげなければという行動に陥って『重箱の隅をつつく』副作用が大きかった(遠藤氏)。